

既製服の表示サイズとバスの仕上げ寸法の実態および フィット感を与える衣服のゆとり量

○中川敦子*

藤原康晴**

(*香川短大)

(**鳴門教育大)

【目的】既製服のサイズに対する消費者の不満を調査した前報の結果によると「メーカーによってサイズが違う」という指摘が多くみられた。表示サイズが同じであっても、服種、形態、メーカー等によって仕上げ寸法が異なるのは当たり前のことである。しかし、衣料サイズの表示システムの理解が十分でない消費者は、表示サイズが同じ衣服は仕上げ寸法も同じであると認識しているようである。本研究では、フィットするサイズの衣服の選定に関する消費者教育教材の基礎資料を得ることを目的として、まず、カタログ販売誌に掲載されている衣服の表示サイズとその衣服のバスの仕上げ寸法の実態を調査した。次に、サイズの異なる衣服を試着し、フィットすると判定された衣服のゆとり量（そのサイズの衣服のバスの仕上げ寸法－着用者のヌード寸法）をいくつかの服種別に算出した。

【結果】数種のカタログ販売誌に掲載されているフィット性を必要とする衣服（シャツ、ジャケット、ワンピース）とフィット性を必要としない衣服（セーター、Tシャツ、トレーナー）を対象として、前者については9AR、後者についてはMサイズのもののバスの仕上げ寸法を調査した。その結果、ワンピースのバスの仕上げ寸法の平均値は91.7 cm、標準偏差は2.5 cm、トレーナーのバスの仕上げ寸法の平均値は94.5 cm、標準偏差は8.0 cmであった。また、サイズの異なる衣服を試着し、フィットすると判定された衣服のゆとり量をいくつかの服種別に測定した結果、フィット性を必要とする衣服（ブラウス）のゆとり量の平均値は7.3 cm、標準偏差は3.7 cmであり、フィット性を必要としない衣服（セーター、トレーナー）のゆとり量の平均値、標準偏差は、それぞれ、-12.2, 31.4cm ; 5.7, 6.4cmであった。